



令和7年7月8日



チームたかとく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -0708本校校長たより⑦-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上 松 武

■人を喜ばせることが得意な子どもたち(その2)

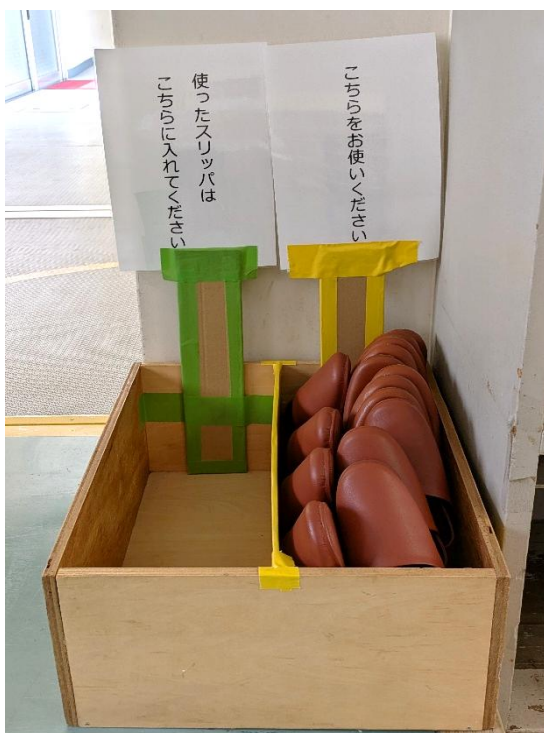
□「涼を感じるのれん」に七夕飾りが加わって～中学部2年生からのお届け物～



- ・中学部の授業を見て回っている時、2年生のある学級では七夕飾りを作成していました。いつもの癖で、「とてもきれいですね。校長室の入口に飾りたいな」と声を掛けるところ、その日の昼休みに、担任の先生と一緒に七夕飾り3つとお手紙を届けてくれました。その後も輪飾りがたわわに連なった飾りをいただきました(左写真)。一生懸命に作ってくれたことがよくわかる飾りでした。早速、のれんの間に飾りました。
- ・子どもたちの一生懸命さにはあたたかさを感じます。そのあたたかさに癒されながら、校長室で仕事ができます。皆さん、ありがとうございます。

□新聞紙の箱折り～中学部2年生からのお届け物～

- ・これも中学部2年生の教室を訪れた時です。角がピッタリ合った新聞紙の箱折りが、生徒の机の下にたくさん出来上がっていました。この時もいつもの癖で、「その新聞紙の箱、もらえると嬉しいな」と声を掛けてみました。
- ・その日の午後に、5枚届けに来てくれました。手渡しする時には渡す向きを気を付けながら渡してくれた、その仕草にも嬉しくなりました。
- ・不安定になることがある生徒ですが、人からほめられること、人の役に立っていること、人から必要とされていることを経験することで、少しずつ行動が変わり、考え方が変わっていくと信じています。だから、新聞紙の箱がなくなったら、またお願いしようと思います。



□このひと工夫、なるほど!

～仕切りが付いたスリッパ収納箱～

- ・これまで勤務した学校に左写真のようなスリッパ収納箱を見たことがありません。病院などでは見かけますが…。
- ・実に衛生的ですし、使った人はきっと使用済みの仕切りにきれいに返却するのではないかと思います。
- ・乱雑に収納されていれば、使った後もポイッと投げ入れて返却することでしょう。でも、このような収納箱が用意されていることで、人間はその場にふさわしい行動、その場で期待される行動をとろうとし

ます。このひと工夫は価値ある工夫です。ありがとうございます！

□役割は人を成長させます～「たかとく保健室」から～



保健室と子どもたちの
関わりをお知らせ
していきます！

健康観察簿を届けてくれる子どもたち

学級毎に健康観察簿を運ぶお仕事をしている子どもたちがいます。
毎朝、お友達と手をつないで届けてくれたり、先生と一緒に届けてくれたり...
高等部のお姉さんお兄さんは仕事人のように頑張ると...
皆が持ってきてくれるおかげで、保健室はとても助かっています！いつもありがとうございます。





保健室からのお知らせ

★6月ですべての健康観察が終了しました。結果より、医療機関の受診のお知らせを配付した家庭で、受診が済んでいない方は早めの受診をお願いします。

★今年度も健康教室を開催します。今年のテーマは「性」、開催予定日は未定です。寄宿舎の先生方からもお話をいただく予定です。ぜひご参加ください。詳細につきましては、後日配付する文書をご覧ください。

- ・7月号のほけんだよりを見ましたか？
- ・「たかとく保健室」という新しいコーナーができ、保健室と子どもたちの関わりが紹介されています。

- ・今回は健康観察簿の係活動について記載されています。たかが「健康観察簿係」ですが、そこにどれだけ価値づけられるかが私たち教師の腕のみせどころです。次回はどんなことが記載されるのか期待しています。

■子どもたちの行動には必ず意味がある

～応用行動分析の観点から～

- ・子どもたちの行動には必ず意味があります。その見えない行動の意味を考えて、最善の支援方策として見える化し、関わることできたらどんなにいいことでしょう。
- ・先生方は、日々子どもたちの行動の意

味を考え、悩みが付きないのではないのでしょうか。

- ・別紙でプリントを一枚添付しました。そのプリントは十日町市立十日町中学校の発達障害通級指導教室担当の五十嵐潔美先生が作成したおたよりです。
- ・図にあるように、行動の前の「A 先行事象(きっかけとなる状況)」と、行動の後の「C 結果事象(行動が繰り返されやすくなる事象)」に着目してみましょう。
- ・そして、おたよりで紹介されている具体例を参考に、きっかけとなる環境を変えたり、関わり方を変えたりしてみてください。行動の意味が見える化されてくるとおもいます。

■先生方との面談を通して(その2)

- ・教職員面談で聴くことができた「授業や活動への工夫やチャレンジ」と、「これって必要なの?!」を一部紹介します。

□Nice な取組(工夫していること、やってみたいこと)

- 🌸『南1チャレンジ』を実施。ちょっとした時間を活用して、舎生も指導員も1つ目標を自分で決めて取り組んでいる。

【例】体操着を干す、季節に合ったお花を作って飾る

- 🌸舎監の時に、「ボッチャ、やろう！」などと学校で学習したことを寄宿舎でも楽しそうに取り組んでいる姿を見ることができた。寄宿舎での過ごし方も日々の指導支援の参考になる。

- 🌸寄宿舎の配膳係の仕事を二人の舎生にお願いしている。最初一人一人に配膳の手順表を持たせたが、二人で1つの手順表を使うようにしたところ、相談したり協力したりしながらやり遂げている。最終的には手順表がなくとも、二人で何とかできるようになることを目指したい。

🌸 年度初めから帰りの会では友達の頑張りを発表することになっている。最近では、この時間を生徒たちが楽しみにしている。仲間に頑張りを認めてもらうことに大きな効果があるように思う。

🌸 寄宿舍では舎生の中に「防災リーダー」を決めて、避難訓練時に他の生徒への声掛けなどを担っている。生徒同士の声の掛け合いで防災意識の高揚を図っている。

□改善点(まさしく改善した方がいいこと)

▲個別の指導計画の作成に関して、目標や手立ての設定に時間をかけ過ぎているように感じる。もう少し簡略化、スリム化できないか。

▲運動会や学習発表会は、普段の学習の取組を発表する（見てもらう）。学習発表会のために何かをやり始めるという発想ではなく。そう考えると、発表時間帯は普段の授業時間が望ましく、平日開催が子どもたちには無理なくできると考える。

▲年度初めに、知的障害特別支援学校に関する基礎基本のガイダンス的な研修が必要ではないか。

【例】①自閉症の概論と具体的な指導支援（視覚支援、構造化など）

②保護者対応の基礎基本 ③教育課程の基礎基本

▲就学相談の件数が年々増加している。現在の担当人数では本務に支障が生じ兼ねない。人員の増員を検討してほしい。

▲非常に多忙である。時間的、精神的なゆとりを作らないと大きなミスや事故に繋がり兼ねない。

■教師版「おやべり会」の実施～8/25 に実施予定～

- ・上記のとおり、改善点を数多く指摘していただいています。この指摘は「今のこの状況を変えたい」という前向きな気持ちの表れだと私は思っています。
- ・前回のたよりでも触れましたが、この想いを皆さんと共に考えて納得のいく方策を生み出し実行していきたいと考えます。
- ・そこで、上記の改善点や学校評価で多くの先生方が改善を要とした課題について、わいわい言いながら検討し合う「自分たちのための『おしゃべり会』」を、8月25日（月）に実施します。
- ・自分たちが指摘した改善点や課題に、自分たちが考えた改善策で取り組んでみたら、うまくいった、なんかいい感じになったきたと手応えをつかみましょう。このことが今より働きやすい学校になると信じて！

■令和7年度第 61 回全国特別支援学校長研究大会(6/26～6/27)から

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の基本的な考え方



- 1) 家族で別々のラーメンを注文
(個別最適)
- 2) 感想などを交換しながら食べる
(協働)
- 3) 一人で食べるより、
全員が同じラーメンを食べるより
楽しめるし、深く知る。

「家族の団らん」「楽しく腹を満たす」といった大目標が重要
(個別や協働、ラーメンは手段)

©2024 高橋純 (東京学芸大学)

- ・全国に約 1,020 校ほどある国公立・私立の特別支援学校の校長が一堂に会する研究大会です。今年度は約 930 校の校長が参加しました。
- ・文部科学省特別支援教育課長や調査官からの行政説明やその時々課題を受けた講演、そして学校経営課題別の研修などが 2 日間に渡って行われました。いつくか報告します。

□「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について(次ページ)

- ・よく分からない用語だと思っていましたが、スライド（前ページ）を見て「なるほど」と納得がきました。皆さんはいかがですか。とても分かりやすい例えだと思いました。

※「デジタル学習基盤を生かした今後の学校経営」高橋純様（東京学芸大学教授）のスライド引用

□「各教科等を合わせた」指導とは

- ・作業学習や日常生活の指導、生活単元学習などは「各教科を合わせた指導」と言われていますが、これは指導の形態の一つに過ぎません。
- ・例えば、日常生活の指導は、生活科を中心として、特別活動の学級活動など広範囲に、各教科等の内容が扱われるとされています。
- ・「何の教科や領域の内容を日常生活の指導で扱っているのか」を生徒に応じて明らかにして指導しなければならないという視点が必要です。

「各教科等を合わせた」指導とは

指導の形態について

(1) 教科別に指導を行う場合

(2) 道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて指導を行う場合

(3) 各教科等を合わせて指導を行う場合

各教科等を合わせた指導とは、**指導の一形態であり、固有の目標及び内容を有しているものではない。**

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編P28～35

22

※「特別支援教育の動向について」加藤宏昭調査官の行政説明スライドから引用

■45 時間以上の超過勤務実態～6月の状況から～

- ・6月の45時間以上の超過勤務者は22名でした。5月よりも増えています。超過勤務の善し悪しを話題にしたいのではありません。先生方全員と現状の共有を図ることと、何がそうさせているのか先生方全員と考えるために状況を示しています。
- ・8月25日に実施する「私たちのための『おしゃべり会』」では、日頃考えている改善点と先生方全員で改善策を考え実施し、「今までこうだった」という前例踏襲を少しでも見直し、働きやすい職場環境にしていきたいと思います。

■絵本の紹介

『おこだでませんように』 くすのき しげのり・作 石井聖岳・絵



みどころ

「ぼくは いつも おこられる。」

妹を泣かせて怒られて、女の子を驚かせて怒られて、友達に先に手を出して怒られて・・・。

お母さんや先生にいつも大目玉をくらっているこんな男の子、いるいる。ついつい「何で怒られるような事ばかりするんだろう?」、「どうして何も言わないの?」なんて思ってしまう事も。

でも、この絵本を読んでほっとさせられたのです。こんな風に思っていたなんて。怒られても言い返さない訳が、おかあさんや先生の笑顔が見た

いからだなんて・・・。悔しさをぐっところえる横顔が途端にたくましく、愛おしく見えてくるのです。

感情のコントロールが下手な子、ついつい怒ってしまうおかあさん、男の子が理解できない女の子の為に。子ども達の気持ちを代弁してくれるこんな絵本の大切さを痛感します。最後に素直に喜ぶ「ぼく」の姿をみて思うのは・・・男の子ってやっぱり可愛い、という結論！（「絵本ナビ」ホームページより引用）